

湖東土木  
事務所

# 滋賀県道路整備 アクションプログラム 2018



どこに

どんな  
道路が

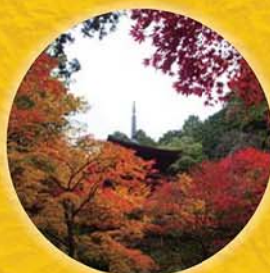
いつまでに  
必要か



選択と集中による重点化を図り  
地域に真に必要な道路を優先して整備



彦根城



金剛輪寺三重塔(紅葉)



豊郷小学校旧校舎群



道の駅 せせらぎの里こうら



多賀大社



湖東地域は、内陸工業県である本県を支える多くの企業が立地するほか、彦根城や多賀大社、湖東三山をはじめ、数多くの歴史的な観光資源に恵まれた地域ですが、地域を通過する国道8号などの主要幹線道路では、交通集中による渋滞が慢性的に発生し、地域生活にとどまらず、地域企業の経済活動にも重大な影響を及ぼしています。

このため湖東地域では、大きな課題である交通渋滞の緩和に向けた道路整備や通学路等の安全確保を目的とした歩道整備など、幹線道路から地域内の道路に至るまで、着実な道路整備の推進が必要です。

## 道路整備アクションプログラム2018とは

「滋賀県道路整備アクションプログラム2018」は、滋賀県における道路整備の基本方針である「滋賀県道路整備マスタープラン(第2次)」に基づき策定した、将来10年間(2018年度～2027年度)の具体的な道路整備計画です。

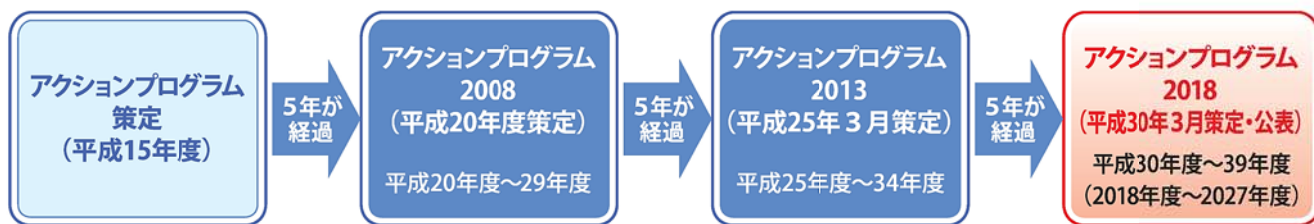
間もなく、本県でも本格的な人口減少局面に入ると予測されており、生産力の低下、地域の過疎化の進展などの課題が懸念される中、道路整備の面でも県の基本構想および国土交通省の施策などを踏まえながら、地域の実情に応じた道路整備を進めていく必要があります。

こうした社会経済情勢の変化を背景に、改築事業・交通安全事業の見直しを行いました。見直しにあたっては事業の重点化を進め、より効果的・効率的な計画となるよう努めるとともに、県下8地域で行った地域ワーキングなどの取り組みを通じて、地域の声を反映させたプログラムとなるよう工夫しています。

## アクションプログラム2018見直しの経緯

「滋賀県道路整備アクションプログラム」は、社会経済情勢の変化や新たな政策課題に係る変更要素が生じた場合には適宜見直し、最長でも5年後には見直すこととしています。

平成15年度に最初の計画を策定して以降、アクションプログラム2008、2013と2回の見直しを行っており、今回が3回目の見直しとなります。



## アクションプログラム2018見直しの背景

これまで増加が続いていた本県も人口減少局面を迎え、地域の状況・課題に応じた事業展開を図ることが必要です。また、全国的に大規模な災害が頻繁に発生している中で、災害に備えた道路ネットワークの強靱化が求められています。

### 人口減少を見据えた県土整備

2015年に141.3万人であった本県の人口は、社人研の推計によると、2040年には130.9万人になると予想されています。

豊かな暮らしと地域の活性化に資する道路の整備を着実に進めることで、滋賀県の総合戦略に掲げた人口目標、約137万人(2040年)の達成をしっかりと支えていきます。

### 幹線道路網の整備が進展

県内ではこの5年間に3箇所スマートインターチェンジが開通し、国道1号などの整備が進みました。さらに今後予定される新名神高速道路の全線開通により、県内外の交流・連携の強化が期待されています。

### 災害に備えた道路ネットワークの強靱化

近年の気候変動に伴い、災害が頻発・激甚化する中、本県においても平成29年8月の台風5号および10月の台風21号による大雨により、県内各地で通行止めが発生しました。

災害を防ぐ道路整備と共に、被災しても他の道路で速やかに代替りの路線が確保できるような、災害に備えた道路ネットワークの強靱化が求められています。

# アクションプログラム2018策定の流れ

## ❖ 滋賀県道路整備マスタープラン(第2次) (平成23年度策定)

滋賀県基本構想の達成に向け  
『4つの政策目標』を掲げて道路整備を実施

県内産業の  
活性化と  
地域文化の交流

誰もが安心・安全に  
暮らせる優しい  
県土の実現

### 政策目標を実現する道路ネットワークの形成

- |                           |                                 |
|---------------------------|---------------------------------|
| ① 地域間を連絡する環状道路網の形成        | ④ 公共交通機関と連携した総合的な交通システム<br>への支援 |
| ② 県外との交流を促進する放射状道路の整備     | ⑤ 人や自転車を主体としたネットワークの形成          |
| ③ 地域内での利便を高める幹線道路や生活道路の整備 |                                 |

環境負荷の軽減と  
個性と潤いのある  
生活空間の創造

地域の自立的発展と  
不安のない  
暮らしの創出

## ❖ 湖東地域 地域ワーキング

**第1回**  
平成29年  
8月8日(火)  
5年間を振り返り、地域の道路、交通の問題点や課題等について意見を伺いました。

**第2回**  
平成29年  
9月13日(水)  
客観的評価マニュアルにおける地域の重点項目について意見を伺いました。

**第3回**  
平成29年  
11月24日(金)  
地域の重点項目の決定結果の報告や地域ワーキングでの「地域の声」(案)について意見を伺いました。

**第4回**  
平成29年  
12月20日(水)  
アクションプログラム2018における掲載箇所(案)について意見を伺いました。



内容

- ◇ 地域課題の抽出や、その課題を踏まえた今後の道路整備に向けて、広く意見を伺う
- ◇ 客観的評価マニュアルにおける地域特性の評価に必要な「地域の重点項目」を選定
- ◇ 今後の道路整備についての「地域の声」\* とりまとめ

※地域ワーキングで  
伺った意見をもとに  
まとめた地域課題  
やその課題を踏ま  
えた今後の道路整  
備についての意見

委員

有識者、公募委員、  
道路利用者、  
市町職員等

【湖東土木事務所管内における地域の重点項目】

- 「渋滞対策プログラム」に位置付け
- 通学路等の整備

具体化

## ❖ 客観的評価マニュアル(平成29年度一部改訂)

### 改築事業

バイパス整備や現道拡幅など

▽▽ 5項目で評価 ▽▽

1. 必要性

2. 走行改善効果

3. 進捗状況

### 交通安全事業(交差点改良)

右折レーンの延長や新設、交差点改良など

4. 事業熟度

5. 地域特性

地域の重点項目

### 交通安全事業(歩道整備)

自転車歩行者道や歩道の新設・改良

▽▽ 5項目で評価 ▽▽

1. 計画の位置づけ

2. 道路利用状況等

3. 必要性

4. 進捗状況

5. 事業熟度

# 滋賀県道路整備アクションプログラム 2018

どこに

どんな  
道路が

いつまでに  
必要か

10年間の具体的な道路の整備計画

<< 詳細は中面へ

# 湖東土木事務所 道路整備アクションプログラム 2018

## 道路事業：改築事業

00

整理番号	路線名	工区名	継続	2018~2027		※事業化 検討路線
				前期 2018~2022 着手	完了	
①	国道307号	多賀				●
②	国道307号	松尾寺	●			
③	多賀醒井線	久徳・河内	●			
④	愛知川彦根線	稲枝・彦富	●		●	
⑤	神郷彦根線	川原	●			
⑥	湖東彦根線	愛知川	●			
⑦	豊郷停車場線	八目	●			
⑧	水谷彦根線	水谷・仏生寺	●		●	
⑨	安食西八目線	安食西	●			
⑩	湖東三山SICアクセス道路	目加田	●			

## 道路事業：交通安全事業（歩道整備）

00

整理番号	路線名	工区名	継続	2018~2027		※事業化 検討路線
				前期 2018~2022 着手	完了	
①	国道306号	多賀		●		
②	国道307号	斧磨	●			
③	彦根八日市甲西線	安孫子		●		
④	稲枝沢線	肥田				●
⑤	神郷彦根線	西今	●			
⑥	神郷彦根線	平田				●
⑦	北落豊郷線	上枝				●
⑧	松尾寺豊郷線	沢	●			
⑨	彦根環状線	大藪		●		
⑩	甲良多賀線	在士				●

## 道路事業：交通安全事業（交差点改良）

00

整理番号	路線名	工区名	継続	2018~2027		※事業化 検討路線
				前期 2018~2022 着手	完了	
①	大津能登川長浜線	松原				●
②	彦根八日市甲西線	在士	●			
③	敏満寺野口線	野口・出町	●		●	

## 街路事業

00

整理番号	路線名	工区名	継続	2018~2027		※事業化 検討路線
				前期 2018~2022 着手	完了	
①	(都)原松原線 (彦根環状線)	原・古沢	●			
②	(都)原長曾根線 (彦根近江八幡線)	安清跨線橋				●
③	(都)長曾根銀座線 (大津能登川長浜線)	城町・本町				●

## 参考掲載

### 国事業

00

整理番号	路線名	工区名
①	国道8号	米原バイパス
②	国道8号	高宮地区歩道整備
③	国道8号	築瀬・長野地区交差点改良

### 市町事業

00

整理番号	市町名	路線名	工区名	継続	2018~2027		※事業化 検討路線
					前期 2018~2022 着手	完了	
①	彦根市	古沢安清線 (都)古沢安清線	第2工区	●	●		
②		稲部本庄線	稲部・彦富	●		●	
③		芹橋彦富線	稲部・彦富	●		●	
④		佐和立花線 (都)立花船町線	立花・佐和	●		●	
⑤		大藪磯線	大藪	●		●	
⑥		松原町大黒前鴨ノ巣線 (都)松原町大黒前鴨ノ巣線	松原			●	
⑦	愛荘町	町道名神国八線	安孫子	●		●	
⑧		(仮)市香之庄線	香之庄		●		
⑨		(仮)深草八町線	深草	●			
⑩	甲良町	町道愛知川栗田線	愛知川	●			
⑪		池寺下之郷線	池寺・下之郷		●		

※ 事業化検討路線：予算の確保状況、他事業の進捗状況および地元との協議調整状況等により事業化を検討していく路線

# 湖東土木事務所 道路整備アクションプログラム2018 箇所図

アクションプログラム2018		アクションプログラム2013		
道路事業	改築事業	10 (箇所)	13 (箇所)	
	交通安全事業	歩道整備	10 (箇所)	10 (箇所)
		交差点改良	3 (箇所)	1 (箇所)
街路事業		3 (箇所)	3 (箇所)	
箇所数: 26 (箇所)		27 (箇所)		

凡例	
道路事業	高速・有料道路
改築事業	国 道
交通安全事業	主要地方道・一般県道
・歩道整備	J R 在 来 線
・交差点改良	J R 新 幹 線
街路事業	私 鉄 線
国事業	市 町 境
市町事業	県 境
	市 役 所
	町 役 場
	インターチェンジ

### ④ 愛知川彦根線 (稲枝・彦富)

●幅員が狭く、通行が危険な踏切の立体交差化整備イメージ



「地域の声」との関連

- 交通渋滞を緩和し、道路交通の円滑化を図る道路整備の推進
- 安心して移動できる歩道等の整備
- 異常気象や災害に強い道路ネットワークの構築

### ⑤ 神郷彦根線 (川原)

●交通渋滞の緩和を目指し、愛知川渡河橋梁の整備整備イメージ



「地域の声」との関連

- 交通渋滞を緩和し、道路交通の円滑化を図る道路整備の推進
- 安心して移動できる歩道等の整備
- 異常気象や災害に強い道路ネットワークの構築

### ③ 彦根八日市甲西線 (安孫子)

●通学路の安全確保のため、歩道を整備



「地域の声」との関連

- 安心して移動できる歩道等の整備



## ① (都)原松原線(原・古沢)

●交通渋滞の緩和を目指し、国道306号のバイパスを整備

現況



整備イメージ



「地域の声」との関連

- 交通渋滞を緩和し、道路交通の円滑化を図る道路整備の推進
- 安心して移動できる歩道等の整備
- 異常気象や災害に強い道路ネットワークの構築

## ② 彦根八日市甲西線(在士)

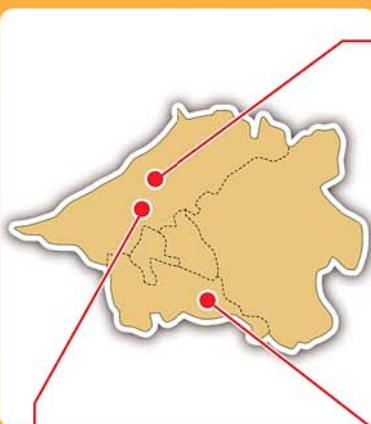
●通学路の安全確保のための交差点改良と歩道の整備



「地域の声」との関連

- 交通渋滞を緩和し、道路交通の円滑化を図る道路整備の推進
- 安心して移動できる歩道等の整備

## アクションプログラム 2013 完了箇所 代表事例



### ❖大津能登川長浜線(甘呂)

●線形不良区間および幅員が狭い箇所のバイパス整備

整備前の状況



整備後の状況



### ❖神郷彦根線(南川瀬)

●通学路の安全確保のため、歩道を整備

整備前の状況



整備後の状況



### ❖湖東三山インター線(松尾寺)

●名神高速道路 湖東三山スマートインターチェンジの整備

整備後の状況



## 地域別アクションプログラム(湖東土木事務所)

## 地域の声

湖東地域(彦根市、甲良町、多賀町、豊郷町、愛荘町)は、名神高速道路、国道8号、新幹線、JR琵琶湖線の国土軸と国道306号、国道307号などの主要幹線が通過する交通の要衝です。こうした地域性から、多賀大社や彦根城などの長い歴史に育まれた文化資源が多く点在するなど、県内でも有数の観光エリアとなっています。

また、平成25年には「湖東三山スマートインターチェンジ」が開通するなど、地域を取り巻く環境も変化しています。さらに、平成36年(2024年)に開催される第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会の主会場として、彦根市内の県立彦根総合運動場が選ばれるなど、今後の湖東地域の活性化も期待されています。

一方で、国道8号等の交通集中による渋滞は依然として厳しいものがあり、渋滞の緩和は解決すべき最大の課題となっています。こうした渋滞を避ける自動車が生活道路や通学路へ流入し、通学児童をはじめとする交通弱者の安全が脅かされており、安心できる空間の確保が求められています。さらに、山間部では大雨によって通行止めとなる道路が存在することや、平成29年1月には33年ぶりの大雪となり日常生活に大きな混乱が生じたことから、異常気象時にも信頼性の高い道路が求められています。

アクションプログラムの見直しにあたり、平成29年8月から4回にわたり地域ワーキングを開催しました。ここでは、地域の課題の抽出やその課題を踏まえた今後の道路整備について、様々な立場の委員の皆様から意見を頂いてきました。これらを以下の4項目の「地域の声」として取りまとめ、今後の地域の道路整備における礎とします。

## 1. 交通渋滞を緩和し、道路交通の円滑化を図る道路整備の推進

当地域で慢性化している交通渋滞は時間的、経済的損失だけではなく、生活道路への車両の進入を招き、子どもや高齢者などに対し危険な状況が続いています。

交通渋滞を緩和するためには、各道路管理者(国、県、市町)の連携のもと、交差点改良や現道拡幅、バイパス整備などを事業進捗が見えるかたちで着実に進めていくことが必要です。

また、道路交通の円滑化を図るために、インターチェンジへのアクセス道路や湖東地域から他地域へ連絡する道路などのネットワーク機能の強化も求められます。

## 2. 安心して移動できる歩道等の整備

通学路等の安全確保を積極的に進め、子どもや高齢者、障がい者、当地域に訪れる観光客など、誰もが安心して移動できる歩道等の整備が必要です。

## 3. 異常気象や災害に強い道路ネットワークの構築

集中豪雨、冬期の積雪、地震などが発生した場合でも、地域が分断、孤立することがないように、各道路管理者が連携した災害に強い道路ネットワークの構築が求められます。また、既存の道路機能を確保できるように計画的かつ戦略的な施設の長寿命化や維持管理が求められます。

## 4. 地域の魅力や活力を高めるための道づくり

歴史・文化資源が豊富な湖東地域の魅力を活かし、地域の活力を高めていくために、県や湖岸の市町が活発に推進している「ビワイチ」の普及促進に向け、自転車の通行のための環境整備を積極的に進めるとともに、琵琶湖周辺だけでなく湖東地域全体に発展させていくための計画的な取り組みが求められます。

地域別アクションプログラム(湖東土木事務所)地域ワーキング